

幼児教育に役立つ動画を配信中！



YouTube
のびラボチャンネル



幼児教育・小学校受験対策プリント
ダウンロード販売サイト
<https://www.nobilabo.com/>

©Nobilabo 2021 無断転載や内容を改ざんしての配布、転売などはご遠慮ください。

いっすんぼうし



「おおきなあれ。おおきなあれ。」
おひめさまは、うちでのこづちを ふりました。
すると…、いっすんぼうしは みるみるうちに おおきくなり、りっぱな わかものになりました。



やがて、ねがいが かなって あかちゃんが うまれました。
けれども その あかちゃんは、おとなの こゆびほどの
ちいさな ちいさな おとこのこの あかちゃんでした。それでも ふうふは おおよろび です。
ふたりは、その おとこのこに『いっすんぼうし』と なづけました。



こどもをおさずけ
ください。

かみさま

むかし むかし、なかの よい ふうふが すんでいました。
ふたりは こどもが いなかったので、まいにち むらの かみさまに いのりました。
「どうか こどもをおさずけ ください。かわいがって そだてます。」

1



おひめさまを すくった いっすんぼうしの うわさは みやこじゅうに ひろまりました。
いっすんぼうしは、みんなに したわれる りっぱな ひとになり、おひめさまと けっこん しました。
そして、おじいさんと おばあさんを みやこに よびよせ、いつまでも しあわせに くらしました。

22



いっすんぼうしは、よくたべ、とても げんきに そだちましたが、
いつまでたっても おおきく なりませんでした。

3



おひめさまは、こづちを てにして、
いっすんぼうしに たずねました。
「いっすんぼうし、
そなたの ねがいは なあに？」
「わたしの ねがいは おおきく なることです。」

いっすんぼうしは こたえました。
おひめさまは、
「では、こづちに たのみましょう。」
と にっこりして いいました。

20



「ひめさま。もう だいじょうぶですよ。」
 いっすんぼうしが おひめさまの
 ところへ かけよると、
 おにが おとしていった こづちがありました。

「これは なんだろう。」
 いっすんぼうしが いうと、おひめさまは ひろいあげて、
 「これは、おにの たからもの『うちのこづち』です。
 これを ふれば、なんでも ねがいが かなうそうよ。」と いいました。

19



あるひ、いっすんぼうしは
 けっしんしたように いいました。
 「わたしを みやこへ
 いかせて ください。」
 おじいさんは びっくりして、
 「みやこに いったら どうするんだい？」
 と きくと、

「ひろい せかいを みて みたいのです。
 かならず りっぱに なって かえってきます。」
 いっすんぼうしは こたえました。
 ふたりは、しんぱいして とめました、
 いっすんぼうしの ところは きまっています。

4



「なんだ、この ちっこいの。」
 おにに ようやく いっすんぼうしに きがつきました。

「まめつぶ ほどの からだで なまいきな。」
 いっすんぼうしに きづいて、おにに おおわりました。
 そして、いっすんぼうしをつまみあげると、
 ひょいと くちのなかに ほうりこみのみこんで しまいました。

17



いっすんぼうしは、
 はりの かたなを こしに さし、
 おわんに のりこみ、
 「それでは 行って きます。」
 と わかれの あいさつを しました。
 「行って らっしゃい。
 きをつけるんですよ。」
 ふたりは いつまでも
 てを ふって
 みおくっています。

いっすんぼうしは、はしの かいで おわんを こぎ、げんきに しゅっぱつ しました。
 ちいさな いっすんぼうしにとって、おおきな かわは うみの ような もの です。
 いっすんぼうしは、くるひも くるひも ふねを こぎ、みやこを めざしました。

6



「でも、どうやっていくの？みやこは とおすぎますよ」おばあさんは しんぱい しましたが、「だいじょうぶです。ふねでかわを のぼって いこうと おもいます。」
と izzunboushi は いいました。
「わたしに、おわんと はし、そして はりを ください。」

5



けれども、izzunboushi も
まけては いません。
「えい！ えい！」
おにの おなかのなかで、
はりの かたなを つきさし はじめました。
「いたたたたたつ！」
おには きゅうに
くるしみ はじめました。

「えい！ えい！」
「いたい！ いたい！」
おには どうとう がまんが できなくなり、izzunboushi を はきだし、
いちもくさんに にげて いきました。

18



どうとう みやこに つきました。おおぜいの ひとが、みちを いきき しています。
「これが みやこか。にぎやかだなあ！」
izzunboushi は ひとびとに ふみつぶされないよう きをつけながら すずんで いきました。

7



izzunboushi だけは、ただひとり、おひめさまの まえに たちはだかりました。
「おひめさまには、ゆびいっぽん ふれさせないぞ！」

16



「これはきれいな ひめじゃ。もらっていくぞ。」
 おともの けらいたちも、おひめさまも、おそろしくて うごくことも できません。



しばらくすると、
 おおきな おやしきに
 たどりつきました。
 「おたのみ もうします！」
 いっすんぼうしは もん の まえに
 たち、おおごえて いいました。
 なかから、
 けらいが できました。

おたのみ
 もうします！

「おや、どこから こえが したのかな。」
 けらいは きよろ きよろ しました。
 「ここです。ここです。あしもとに おります。」
 けらいは、あしもとで みあげている いっすんぼうしに きづき、びっくりしました。



あるひ、おひめさまは
 かのんさまに
 おまいりに いくことになり、
 いっすんぼうしも
 おともを しました。

かえりみち、かいだんを おりたところで、きゅうにつよい かせが ふいて きました。
 「あれをみろ！」
 「おにだ！」
 けらいたちが さげびました。



わたしを
 けらいにして
 ください。

「どうか わたしを、けらいに してください。」
 いっすんぼうしは いいました。
 「ちいさな おまえに なにが できると いうのだ。」
 だいじんが きくと、ちょうど そのとき、ブンブンと ハチが とんで きました。



さわぎを ききつけて、だいじんが やってきました。
だいじんも また、ちいさな ちいさな いっすんぼうしを みて たいそう おどろきました。



なんと、おそろしい かおをした おおきな おおきな おにが あらわれたのです。



いっすんぼうしは かたなを みがまえると、
「エイッ！」と みごとに しとめて みせました。
「ほお、なんと みごとじゃ。」
だいじんは よろこんで いっすんぼうしを けらいに しました。



こうして いっすんぼうしは、
だいじんの やしきで
はたらくことになりました。
やしきのおひめさまは、
いっすんぼうしが
だいの おきにいます。

「いっすんぼうし、かるたの あいてを しておくれ。」
「いっすんぼうし、すみを すって おくれ。」
「はい、ひめさま。」
こうして、なんねんかが すぎて いました。